西陣 相国寺 下鴨

京都市考古資料館の周辺一帯は、応仁・文明の乱の西陣のあった地域です。西陣の地名は高級絹織物のブランド名にもなっています。また、東の「花の御所」あたりに東陣がおかれ、御霊神社や相国寺はその合戦の地の一つでした。そして、同志社大学今出川校地の敷地の一角には、幕末の時期に公家町、歌道の冷泉家、薩摩藩邸もありました。このマップは古い歴史を持つ賀茂（鴨）氏と関係が深い下鴨神社周辺と、応仁・文明の乱ゆかりの室町殿跡、相国寺、御霊神社界隈を紹介しています。近年、発掘調査が数多く行われたこの地域の歴史を探訪してみてください。

相国寺（しょうこくじ）

臨済宗相国寺派大本山。第三代将軍足利義満が開基（1392年）、開山は夢窓疎石（むそうそせき）です。京都五山の第二位に列し、足利将軍家や伏見宮家および桂宮家ゆかりの禅寺です。鹿苑寺（金閣寺）、慈照寺（銀閣寺）など山内外に多くの塔頭をもち、法堂（重要文化財）の「蟠龍図（ばんりゅうず）」は鳴龍として知られています。境内には「承天閣（じょうてんかく）美術館」があり伊藤若冲の絵画などを展示しています。

承天閣美術館

相国寺 法堂

開山堂 石庭

御霊神社（ごりょうじんじゃ）

早良親王（さわらしんのう）ほか七柱を祀る神社です。平安遷都以前からこの地一帯に勢力を持った出雲氏の氏寺・出雲寺の鎮守社として創祀されたともいわれます。御霊の森が広がる当地での管領畠山氏の内紛が応仁・文明の乱の発端となったことでも知られています。五月には洛中最古の祭りの一つで悪疫退散の御霊会（ごりょうえ）に始まるという「御霊祭」が行われます。

御霊祭

楼門

【世界遺産】賀茂御祖神社（下鴨神社）

古くよりこの地に祀られ、平安時代から王城鎮護の社として、式年遷宮や斎王の制度などが定められた特別な神社でした。史跡賀茂御祖神社境内には「糺の森」が広がり、国宝の本殿2棟や53棟の重要文化財社殿が並び、世界遺産に登録されています。「賀茂祭（葵祭）」では優雅な王朝絵巻が再現されます。土用の丑の日に行う「御手洗祭（足つけ神事）」も有名です。

中門

葵祭 斎王代

御手洗祭のようす

糺の森（ただすもり）

史跡下鴨神社境内にある糺の森には御手洗川・泉川・奈良の小川・瀬見の小川の4つの川が流れています。原生林の植生をよく残し、祭祀・神宮寺・池跡なども見ることができます。

糺の森 瀬見の小川

祭祀遺構（復元）

応仁・文明の乱（1467～77）

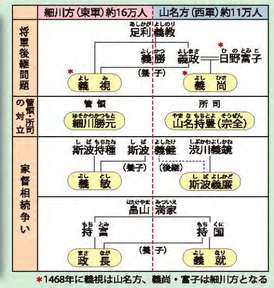
御霊神社付近の森での合戦が発端と伝わります。背景には室町幕府将軍足利義政の世継ぎ問題や、管領畠山・斯波（しば）両家の家督紛争などがありました。幕府の権威失墜もあり、守護大名細川と山名の勢力が対立して京の町は約11年に及ぶ内乱の地となりました。

御霊神社前の碑

■年　表

1467年	応仁・文明の乱はじまる（両畠山軍の衝突） 細川軍「花の御所」占領　⇒　市街戦始まる 山名軍堀川の西へ布陣　⇒　公家・僧らが地方に逃れる 大内政弘軍入京
1469年	戦局の中心が地方へ拡大
1473年	山名持豊（宗全）3月没 細川勝元　5月没 足利義尚9代将軍となる
1477年	応仁・文明の乱終わる（両軍諸将、自国に帰る）

■対立関係



＊1468年に義視は山名方、義尚・富子は細川方となる

山名宗全邸宅跡（やまなそうぜんていたくあと）

守護大名 山名持豊（宗全）が日野富子やその子（義尚）を擁立して、西に陣を張ったことから、この辺りを「西陣」と呼ぶようになりました。この石標は山名邸跡を示すものです。なお、「山名町」はこの邸宅に因みます。

山名宗全邸宅跡石標

百々橋の礎石（どどばしのそせき）

「百々橋」を隔てて東軍と西軍が幾度も合戦を行いました。昭和38年まであった石橋は洛西ニュータウンの竹林公園内に移され復元されました。四石の礎石のうち一石は室町小学校の校庭に、一石は小川通沿い百々橋跡地に残されています。

小川通沿いの礎石

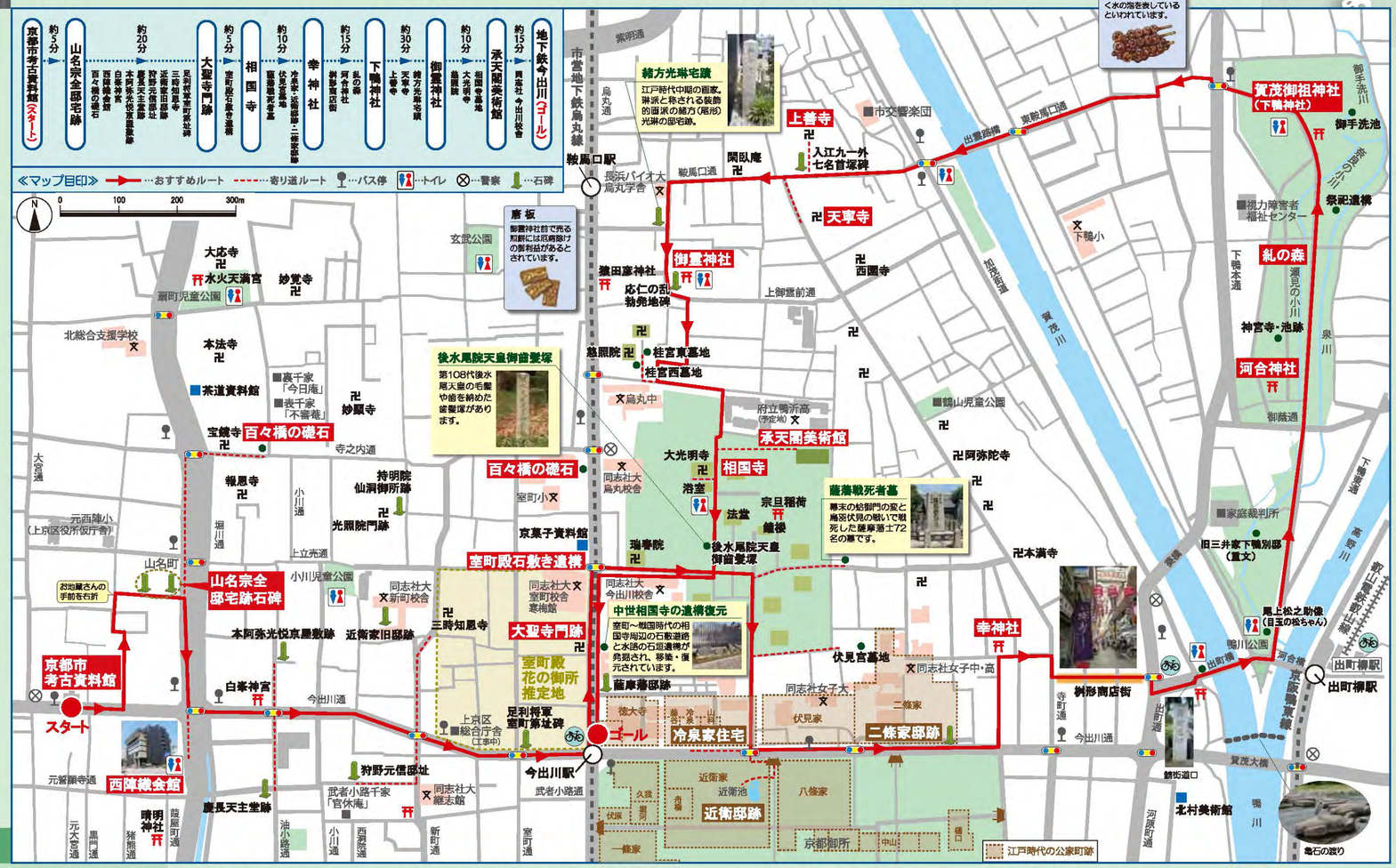
室町小学校内の礎石
〈見学は要許可〉

西陣織会館（にしじんおりかいかん）

世界に誇る日本の和装の美「西陣織」を知って、体験して、楽しんでもらうための施設です。前身は今出川大宮東にある西陣織物館（現 京都市考古資料館）で、西陣五百年記念事業として1976年に移転しました。着物ショーをはじめ、製織実演、展示即売が行われ、歴史的に貴重な織物類を資料室に展示しています。

考古資料館前の西陣碑

着物ショー


≪マップ目印≫　…おすすめルート　…寄り道ルート　…バス停　…トイレ　…警察　…石碑
京都市考古資料館（スタート）
約5分
山名宗全邸宅跡
約20分
足利義教
義勝
義政
日野富子
義尚
義視
細川勝元
山名持豊（宗全）
斯波義廉
斯波義敏
斯波義健
畠山満家
持富
持国
政長
義就
三時知恩寺
近衛家旧邸跡
本阿弥光悦京屋敷跡
百々橋の礎石
約5分
大聖寺門跡
約5分
相国寺
約10分
光照院門跡
約10分
幸神社
約15分
河合神社
約30分
下鴨神社
約10分
御霊神社
約10分
承天閣美術館
約15分
地下鉄今出川（ゴール）
≪石碑≫
唐板
御霊神社前で売る期銭には広病除けの御利益があるとされています。
玄武公園
大応寺
水火天満宮
妙覚寺
扇町児童公園
北総合支援学校
本法寺
茶道資料館
裏千家「今日庵」
表千家「不審庵」
妙顕寺
宝鏡寺
百々橋の礎石
報恩寺
持明院仙洞御所跡
光照院門跡
山名町
山名宗全邸宅跡石碑
お地蔵さんの手前を右折
小川児童公園
同志社大新町校舎
三時知恩寺
本阿弥光悦京屋敷跡
近衛家旧邸跡
白峯神宮
今出川通
京都市考古資料館
スタート
西陣織会館
足利将軍室町第址碑
上京区総合庁舎（工事中）
狩野元信邸址
武者小路千家「官休庵」
同志社大繊志館
慶長天主堂跡
晴明神社
ゴール
今出川駅
武者小路通
室町殿花の御所推定地
大聖寺門跡
室町殿石敷き遺構
京菓子資料館
後水尾院天皇御歯髪塚
第108代後水尾天皇の毛髪や歯を納めた歯髪塚があります。
百々橋の礎石
同志社大今出川校舎
同志社大室町校舎裏梅館
中世相国寺の遺構復元
室町～戦国時代の相国寺周辺の石敷遺構と水路の石垣遺構が発掘され、移築・復元されています。
薩摩藩邸跡
冷泉家住宅
近衛邸跡
近衛家
近衛池
八條家
京都御所
中山
久我
月輪
舟橋
伏原
一條家
二條家邸跡
伏見宮邸跡
伏見宮家
同志社女子大
同志社女子中・高
幸神社
桂宮家
桂宮邸跡
桂宮東墓地
桂宮西墓地
慈照院
瑞春院
後水尾天皇御前髪塚
大光明寺
相国寺
浴室
法堂
宗旦稲荷
鐘楼
承天閣美術館
薩摩戦死者墓
幕末の蛤御門の変と鳥羽伏見の戦いで戦死した薩摩藩士72名の墓です。
同志社大烏丸校舎
扇丸中
府立鴨沂高（予定地）
鶴山児童公園
阿弥陀寺
本満寺
家庭裁判所
旧三井家下鴨別邸（重文）
鴨川公園
出町橋
出町柳駅
京阪鴨東線
鴨川
賀茂大橋
亀石の渡り
北村美術館
鯖街道口
桝形商店街
寺町通
今出川通
出町通
河原町通
烏丸通
烏丸線
市営地下鉄烏丸線
紫明通
鞍馬口駅
長浜バイオ大烏丸学舎
鞍馬口通
関臥庵
上善寺
入江九一外七名首塚碑
天寧寺
御霊神社
猿田彦神社
応仁の乱勃発地碑
上御霊前通
西園寺
出雲路橋
東鞍馬口通
賀茂川
堀川通
■市交響楽団
■視力障害者福祉センター
下鴨小
下鴨本通
祭祀遺構
糺の森
瀬見の小川
三つ石の流れ
御手洗川
御手洗池
賀茂御祖神社（下鴨神社）
みたらし団子
糺の森の御手洗池に湧く水の泡を表しているといわれています。
神宮寺・池跡
河合神社
御蔵通
泉川
高野川
下鴨本通
高野川東通
出町柳駅
京阪鴨東線
鞍馬口通
寺町通
今出川通
出町通
河原町通
烏丸通
烏丸線
鴨川
賀茂大橋
鴨川公園
出町橋
河合橋
みそぎ川
上京区役所（仮庁舎）
元西陣小（上京区役所仮庁舎）
元誓願寺通
黒門通
猪熊通
堀川通
小川通
油小路通
西洞院通
新町通
室町通
烏丸通
烏丸線
烏丸通
烏丸線
烏丸通
烏丸線

Kyoto City Archaeological Research Institute

37

西陣 相国寺 下鴨

～文化財と遺跡を歩く～
京都歴史散策マップ

発行　京都市・(公財)京都市埋蔵文化財研究所

西陣 相国寺 下鴨周辺の発掘調査

この地区は京都市内の上京区と北区、左京区にまたがっています。烏丸今出川交差点の北東には足利義満によって室町時代に創建された相国寺(相国承天禅寺)があります。相国寺旧境内の発掘調査では創建期の建物跡や水路・道路・石垣跡などが発見され、往時の境内の様子の一端が明らかになっています。飛鳥時代の建物跡のほか平安時代から鎌倉時代の溝跡や土坑なども発見され、相国寺創建以前から人々が暮らしていたことがわかりました。堀川通東側の上京区北部と北区南部あたりは、平安京遷都以前には「出雲郷」と称されていた地域で、相国寺と賀茂川の間は出雲路を冠した町名が残っています。また、出雲氏の氏寺とされる出雲寺跡には平安京造営後に御霊神社が創建されました。烏丸通の西側一帯には、足利義満によって造営された「室町殿(花の御所)」があり、付近には公家と武家の屋敷などが建てられ市街地が形成された上京遺跡があります。室町殿跡の発掘調査では庭園の庭石や築山などが検出されています。下鴨地区には、鴨(賀茂)川と高野川の合流地点北側に史跡賀茂御祖神社(下鴨神社)境内が位置しています。境内では、これまでに20次を超える発掘調査が行われ、平安時代後期の斎場跡や祭祀に用いられた土器などが見つかっています。

❶～❹上京遺跡

上京遺跡は、室町幕府の御所である「室町殿」や公家の邸宅、武家屋敷が建ち並ぶ中世の都市遺跡です。東は相国寺境内、西は智恵光院通、南は一条通、北は上御霊(かみごりょう)前通に囲まれた範囲です。2010年の堀川通西側の発掘調査では、室町時代と江戸時代の溝跡や井戸跡が発見され土器や瓦も多量に見つかり、絵図史料などから本阿弥家所領地とみられています。室町殿跡では、1989年の発掘調査で庭石を伴う庭園跡や建物跡などが発見されています。2013年の上京区総合庁舎改築に伴う発掘調査では、元和6年(1620)にあった火災後の廃棄用に掘られた穴や室町時代の溝跡などが発見されました。江戸時代初めの絵図や古文献から、調査区北側は武家の屋敷跡とみられています。

❶本阿弥家所領地跡

室町時代から江戸時代の柱穴や溝跡

❷武家地跡

江戸時代初期の遺構のようす

❷武家地跡

室町時代の溝跡

火災後の廃棄処分の穴

❸室町殿跡

発見された庭園跡の一部

❹室町殿跡

景石を伴う庭園跡と建物跡(手前の石が景石)

❺❻相国寺旧境内

相国寺は永徳2年(1382)将軍足利義満によって発願され、室町殿の東側に10年後の明徳3年(1392)に完成しました。しかし、創建以来六度に及ぶ焼亡と再建を繰り返したことから、境内の伽藍配置や塔頭地割りなど、全容が明らかに記録された絵図は、天明8年(1788)に作成された『寛政二年戊九月塔頭敷地図』(相国寺蔵)が初見です。旧境内の発掘調査は現在までに数多く行われており、これまでに創建期から江戸時代の建物跡や井戸跡、溝跡、堀跡などが見つかり、境内のようすが明らかになりつつあります。最近行われた相国寺境内の発掘調査では、飛鳥時代から奈良時代の建物跡や溝跡なども発見されており、平安京造営以前の出雲郷にかかわる遺跡として注目されます。

❺旧境内北西部

相国寺旧境内北西での発掘調査のようす

戦国時代の堀跡

❻旧境内北東部

桃山時代の建物跡

飛鳥時代の竪穴建物の集落跡

鉄製品を生産した道具や鉄くずも見つかった竪穴建物跡

京都市考古資料館

大正３年に本野精吾の設計で建てられた旧西陣織物館を内部改修し、京都市内の発掘調査・研究の業績を発表・展示するため昭和54年11月に設立されました。特別展と常設展で構成され、約1000点の遺物が展示されています。遺物展示のほかにも、映像やパソコンで旧石器時代から近世にかけての京都の歴史を学ぶことができます。建物は、昭和59年に京都市有形文化財に登録されています。

〒602-8435
京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1
TEL.075-432-3245　FAX.075-431-3307
http://www.kyoto-arc.or.jp/museum/

入館無料・月曜休館(月曜が祝日の場合は翌日)
開館時間／9:00～17:00(入館は16:30まで)
JR京都駅より地下鉄烏丸線「今出川駅」下車徒歩15分
市バス201・203・59系統「今出川大宮」下車すぐ

❼出雲寺跡

出雲寺は出雲氏の氏寺であったと考えられています。寺域の南半は御霊神社境内にあたり、北半は鞍馬口通辺りと推定されています。神社境内では昭和11年(1936)に御霊神社参集所の建設工事中、古墳時代から近世までの遺物とともに、白鳳時代から平安時代の軒瓦が多く見つかりました。軒瓦の中には神社から北西にあたる地区西賀茂の蟹ヶ坂瓦窯(白鳳時代)で作られた軒丸瓦や平瓦などがありました。それらの瓦は出雲寺の建物に所用するため、鴨(賀茂)川を利用して運搬されました。

出雲寺跡推定寺域の南半にあたる御霊神社

境内で採集された瓦片(御霊神社蔵)

❽～❿史跡 賀茂御祖神社(下鴨神社)境内

下鴨神社は正式名を「賀茂御祖神社」といいます。境内は平安京の北東に位置し、社殿は奈良の小川の北東、瀬見の小川の西にあたります。糺(ただす)の森を含む境内は、1983年に国の史跡に指定され、さらに1994年世界遺産に登録されました。2000・2001年に発掘調査が行われ、現在の奈良の小川から南約12mの位置(❽)で、旧奈良の小川が見つかりました。下鴨神社に伝わる時代が異なる二枚の古絵図から、現在の奈良の小川は江戸時代に付け替えられたもので、発掘調査により平安時代後期以前には、ほぼ直線的に流れる人工の川であったことが明らかになりました。小川跡の中からは平安時代から江戸時代の土師器皿の他に、平安時代後期の銭貨と江戸時代の鏡や鈴などの祭祀に使われたものが見つかりました。この小川両岸には、平安時代後期から桃山時代の石が敷かれた遺構や石組などが発見されました。これらは禊(けが)れを洗い流す、禊(みそぎ)などの祭場跡であったと考えられます(❾)。2009年には本殿南東部に位置する船島(ふなしま)の発掘調査が行われ、島の上で行われた儀式に用いられたとみられる平安時代後期の白色土器が多量に見つかっています(❿)。

境内と川の位置

❽旧奈良の小川跡

見つかった旧奈良の小川(東から)

旧奈良の小川から出土した遺物
左／平安時代後期の中国製の銭貨
右／江戸時代の鏡(上)と鈴(下)

❾祭場跡

禊などが行われた土壇下の石敷跡

祭事のための石組跡

❿船 島

船島の発掘調査のようす

船島から見つかった平安時代後期の白色土器

資料提供：公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所